新役員16人を選出

育友会定期総会開催

2016年度育友会（本多英夫会長）定期総会が6月4日、生田キャンパスで開催され、新会長に出雲高志副会長が選任された。育友会員と専修大学の役員・教職員など168人が出席した。

冒頭、4月25日に亡くなられた矢野建一学長に黙とうが捧げられた。

綿貫義文副会長の司会で進行。本多会長のあいさつのあと議案審議が行われ、「15年度事業報告・同決算報告」では、育友会奨励賞は応募要件の緩和により応募者数が増えたこと、全国67支部63会場で行われた支部懇談会は各支部役員の努力により参加者が増加したことなどが報告された。続いて「16年度事業計画・同収支予算」などが承認された。役員選出では会長、副会長、監査役16人が発表された。

馬場杉夫学長代行は「まもなく創立140周年を迎える専修大学は、神田キャンパスの校地整備に取り組んでいる。150年、160年に向けて、ハード面に加え、ソフト面の充実にも取り組む」とあいさつ。日髙義博理事長は「18歳人口減少で大学間競争は厳しい状況にある。皆様のご尽力をたまわりたい」とあいさつした。

来賓の小宮多喜次校友会長のあいさつのあと、新会長に選出された出雲氏は「重責に身が引き締まる思いだ。育友会はまもなく創立60周年を迎えるが、これまでの活動を振り返り今後の活動を展望していきたい。皆様のご協力をお願いします」と呼び掛けた。

最後に退任役員を代表して本多前会長があいさつに立った。「多くの方々から協力いただいたおかげでこの一年活動できたと実感している」と謝意を表した。

翌5日には神田キャンパスで本年度第1回の全国支部長会が開催され、121人が出席した。

新役員が紹介された

熱心に聴き入る参加者

育友会　新会長

出雲　高志（いずも　たかし）さん

次世代支える喜び

「育友会は『子どものために』という同じ価値観の上で活動している、利害関係のない素晴らしいつながりだと思います」

長女が専大に入学した2013年から本部と埼玉支部双方の役員を務め、育友会活動に尽力してきた。

「育友会は『子どものために』という同じ価値観の上で活動している、利害関係のない素晴らしいつながりだと思います」

長女が専大に入学した2013年から本部と埼玉支部双方の役員を務め、育友会活動に尽力してきた。

同年代の子を持つ親同士の付き合いの中で、喜びや悩みを共有。育友会での縁が人と人との縁をもたらしてくれた。「新しい世界が広がりました。次世代を支えるやりがいと喜びは、想像以上です」と話す。

「それだけに役員間の相互理解と協力は不可欠。自由闊達に意見を交わせることができるよう、より密接な関係づくりに努めていきたい」と力を込める。

特に教職員から学業、学生生活、就職などさまざまな情報が得られる夏向けて年史の編纂に着手するのも今年度の重要な活動の一つ。

文学部哲学科の長女とは、通勤・通学の電車の中でもコミュニケーションをとる。「ゼミの話題など大学の話もよくしてくれます」

大手通信会社に勤務。人事、広告・宣伝、テレマーケティング、債権管理などの仕事に関わってきた。そんな社会人の先輩が娘に求めるのは、「人の話に耳を傾け自分の意見をしっかりと持つ。言うべきことを言い、やるべきことをやる。失敗を恐れずチャレンジする」ことだ。

漫画家を目指し、仕事のかたわら劇画原作者・小池一夫さんの門下生として創作活動に打ち込んだことも。愛読書は山本周五郎と司馬遼太郎の作品。「根底にある優しさに惹かれます」。大阪市出身、58歳。

弁護士・5代総長
今村力三郎生誕150年

神田で記念展開催中

人権派弁護士として明治から昭和にかけて数々

専修大学総長を務めた今村力三郎（1866―1954年）の生誕150年記念展が6月11日、神田キャンパス8号館今村力三郎記念ホールで始まった。23日（木）まで（日曜休館）。

5部構成で、法服や訴訟資料など約50点を展示。生い立ちから、今村が学んだ専修学校（専修大学の前身）の法学教育、大逆事件や五・一五事件など担当した事件の記録、さらに昭和21（1946）年に第5代総長に就任してからの大学改革についても紹介している。今村の生涯を通して専修大学の法学教育が果たした社会的役割を振り返る。

18日（土）午後1時半からは神田キャンパス7号館で記念講演会がある。また11月9日（水）～12月3日（土）は生田キャンパス9号館でも展示する。いずれも無料。

問大学史資料課☎03・3265・5879

UIターンを促進

山形県と協定締結

専修大学と山形県は5月30日、同県へのUターンUIターン就職を促進するための協定を締結した。本学のUIターン協定締結は群馬、茨城、栃木、静岡、長野に続き6県目。今後もUIターン希望者の支援を強化していく。

本学と山形県は学生、保護者に対する企業情報の周知や、UIターン就職に関する情報交換など6項目で連携。具体的には学内企業説明会で山形県内企業コーナーを設けたり、インターンシップ情報を学生に提供したりする。

吉村知事（右）と湯浅常務理事＝5月30日、山形県庁

山形県庁で行われた締結式には吉村美栄子知事と湯浅敏明常務理事が出席し、署名を交わした。吉村知事は「若者の県内回帰に向け意義深い協定だ」と述べ、湯浅常務理事は「学生全体に山形県の就職情報を提供したい」と語った。

就職課から

S-netの活用を

就職活動をしている皆さん、S-netを活用していますか？

意外と知られていないのが「活動記録情報」です。説明会の内容や面接での質問内容、社員の雰囲気など、過去にその企業を受験した先輩が残してくれた記録です。何も準備をしないで選考に臨むよりも、企業の傾向を少しでも把握することで、不安が軽減されるのではないでしょうか。ぜひ活用してみてください。

さて、企業の採用意欲は依然高い状態が続いています。

中小企業約150社が来校する「学内企業説明会in生田」を6月15日（水）～17日（金）の3日間、生田キャンパスグリーントップ（生田食堂棟）3階で開催します。これまで見てこなかった業界・業種を知るチャンスです。一般職や事務職などの求人も多数あります。授業の合間にぜひ足を運んでください。

当日の参加企業などの詳細は、ポータルやS-netでお知らせしますので、こまめに確認するようにお願いします。

訃報

中田保氏（なかだ・たもつ）名誉教授。元法学部教授。

3月27日、81歳で死去。1973年から2005年まで在職。専門は英語。

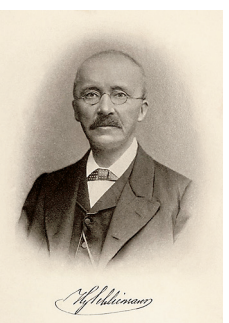
松浦利明氏（まつうら・としあき）元経済学部教授、元経済学部長。

5月4日、82歳で死去。1985年から2004年まで在職。専門は世界の農業問題。

外国語のススメ
外国語教育研究室

― 48 ―

英語


ハインリヒ・シュリーマン（出典Wikimedia Commons）

達人の外国語学習法

八島　純　法学部講師

ハインリヒ・シュリーマン（1822―1890）という考古学者をご存じだろうか。子供の頃に父親から聞かされたホメーロスの詩に感銘を受けたシュリーマンは、空想上の都市と考えられていたトロイアが実在したにちがいないと考え、その信念を裏付けるために不撓不屈の精神で資金稼ぎと勉学に励み、見事にトロイアの存在を発掘によって実証したことで知られている。

シュリーマンはまた、十数カ国語を操る語学の達人だったことでも名高い。自伝の中で、語学学習の秘訣は「大きな声でたくさん音読すること、ちょっとした翻訳をすること、毎日一回は授業を受けること、興味のある対象について常に作文を書くこと、そしてそれを先生の指導で訂正すること、前の日に直した文章を暗記して、次回の授業で暗誦すること」（『古代への情熱―シュリーマン自伝―』（シュリーマン著、関楠生訳、新潮文庫より）と述べている。

語学の天才も意外に地道な努力をしているのだな、という印象を持たれたのではないだろうか。実際、シュリーマンは、外国語の本を何冊も諳んじてしまうまで、こうした地味な作業を延々と続けたのである。

あなたがもし語学の学習に行き詰まりを感じたら、外国語学習は一朝一夕にして成果が出ないということを思い出して、上述の方法をしばらくの間辛抱して続けてみてほしい。半年、1年、と続けていくうちに驚くほど上達していることだろう。

※短縮版：全文はCALL教室ホームページで